

疾患名 小腸癌プロトコール名 FOLFOX

- 進行・再発癌 術後補助化学療法 術前補助化学療法
 大量化学療法 局所療法 その他()

投与順	抗癌剤名(商品名・略号)	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日(d1, d8等)
1	オキサリプラチン(L-OHP)	85mg/m ²	div	2時間	d1
2	レボホリナート(L-LV)	200mg/m ²	div	2時間	d1
3	フルオロウラシル(5-FU)	400mg/m ²	div	15分以内	d1
4	フルオロウラシル(5-FU)	2400mg/m ²	div	46時間	d1~2

1コース期間 (次コースまでの標準期間)	2週間
総コース数	PDまたは副作用が許容できなくなるまで
コース間での休薬の規定	Grade3以上の血液学的毒性、非血液学的毒性

減量規定・中止基準	末梢神経障害(L-OHP減量、中止)、Grade3以上の血液学的毒性によって減量、休薬
投与量の増量規定	なし
投与期間の短縮規定	なし
コースによる変化	なし
1日の中での抗癌剤投与順	L-OHP・L-LV→5-FU→5-FU
プレ Medikation・ポスト Medikation	プレ Medikation グラニセトロン1mg、デキサメタゾン注6.6mg

※CTCAE v5.0

患者条件(初回条件)

- ・PS:0-2
- ・主要臓器機能が十分保たれている

除外規定

- ・白金を含む薬剤、5-FUに対して重篤な過敏症の既往歴のある患者
- ・重篤な骨髄抑制、感染症、心疾患又はその既往歴のある患者
- ・多量の胸水、腹水がある患者
- ・機能障害を伴う重度の感覚異常又は知覚不全のある患者
- ・S-1投与中及び投与中止後7日以内の患者
- ・妊娠中又は、授乳中の患者

実施上の注意点

- ・蓄積性の末梢神経障害、アレルギーに注意
アレルギー対策として、レスタミン10mg 5錠の内服+ファモチジン注20mg+デキサメタゾン合計16.5mgの追加も検討

その他(特記事項)

2サイクル以降の投与開始時確認事項

[2サイクル目以降の投与基準]

投与予定日に下記条件に該当することを確認して、投与を開始してください。下記条件を満たさない場合は、回復するまで投与を延期してください。

投与予定日の臨床検査値

種類	程度
好中球数	1,500/mm ³ 以上
血小板数	75,000/mm ³ 以上

上記基準は本剤添付文書に記載されているものであり、個々の症例に応じて適切に対応してください。

[減量基準]

前サイクルのFOLFOX 療法後に、下記基準に該当する有害事象が発現した場合は、減量してください。

減量基準 (FOLFOX4法)

種類	最悪時の程度	次回投与量
好中球数	500/mm ³ 未満	オキサリプラチン製剤を65mg/m ² ^{注3)} 又は75mg/m ² ^{注4)} に減量 フルオロウラシルを20%減量(300mg/m ² の急速静脈内投与 及び500mg/m ² の22時間持続静注)
発熱性好中球減少症 ^{注1)}	—	
血小板数	50,000/mm ³ 未満	
消化器系の有害事象 (予防的治療の施行にもかかわらず発現)	Grade3 ^{注2)} 以上	

注1) 発熱性好中球減少症が発現した場合は、次回投与量に従い減量する。

注2) 「治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌」の場合はNCI-CTC version 2.0(1998年)。「結腸癌における術後補助化学療法」の場合はNCI-CTC version 1(1982年)。

注3) 「治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌」の場合。

注4) 「結腸癌における術後補助化学療法」の場合。

